

教団新報

定価 1部220円(本体200円+共283円)
予約購読料 1年分 千共 3,962円
紙代のみ 3,080円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
URL <http://uccj.org>
発行人 網中彰子
編集主筆 嶋田恵悟
印刷所 株式会社きかんし



横浜明星教会 (神奈川教区)

メッセージ

確かな救いがある

ローマの信徒への手紙6章8節



網中彰子

「誕生日までに洗礼を受けたいです！」前任地の横浜明星教会に着任して3回目の主日礼拝後に高校生が笑顔でそう申し出た。時かれた種が最善の時に芽吹くように、受洗者が与えられるようにと祈り続けた教会の信仰

の潤いに満たされて、その一人が洗礼へと導かれたことを思い皆で喜びの時を迎えた。古い自分が主と共に死に、主と共に生きる幸いがある。

初めての死

私の母方の祖父はカトリック雪ノ下教会の神父様と交流があった。洗礼は受けていなかったが家では讃美歌の「山路こえお声をかけてくださった

わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます。
(ローマの信徒への手紙6章8節)

主のものとなる洗礼

生きていく間に共にあるお方を与えられるのが洗礼による「神われらと共にいます」インマヌエル・アーメンの信仰による平安だ。死んだら楽になる、ではなく、生きていて楽になる。そんな生き方がある、道がある、いのちがあるという事実を礼拝で聖書から聴き聖霊によって洗礼へと導かれる。主のものとされて、ここに救いがあると福音伝道していく恵みと喜び、希望がある。

限界のその先に

どんなに思いを寄せても完全に人も自分も救えないと一つの限界を知らされて、救いを求める。私たちの罪を十字架の死によって贖ってくださったイエスさまを、昔のようにはこの世の気まぐれで呼び出した放つておいては、主権を完全に握られて、洗礼によって新しいのち

ちやっかり十字架

5月の父の葬儀の時、「先生、骨壺に十字架を入れてしまいました」家に届いた十字架のつく居場所。一人っ子の私はクリスチャンではない父母と延命治療はどうするか、葬儀はどうしたいかなど互いの意思を確認していた。本人の希望通り懇意にしている栄光式典社に依頼し母と私で自宅から送ることとなった。

死を死ぬ神の子

信仰者でも自ら命を絶つ方はいる。20代の頃そんな方の葬儀に出たとき、開始前の礼拝堂は重苦しい雰囲気があった。招詞でルカによる福音書が読まれた。「父よ、彼らをお赦しください。自分は何をしているのかわからないのです」(23章34節)。十字架の上のイエスさまの言葉だ。そうだった。亡くなった方だけが何をしているのか知らないのではなく、私たちが皆初め、救

実感を超える信仰

「信徒の友」2006年10月号「ここに教会がある」の記事の中で調布教会の石川恭さんという方の言葉が印象に残り書き留めておいた。当時99歳。「祈っていると、祈られていてることを感じ、さびしくないんです。祈りは神さまとの対話と他者との連帯でもある

お知らせ
「教団新報」今号を5005・06合併号とし、次号は10月28日に発行します。
総幹事 網中彰子

女子学院の高校3年生の修養会の講師に招かれた時、分団を回っていたら「私はまだ受洗していません。でもたまには頭張っているね」と実際に神さまに肩をトントンと叩いてほしい」と高校生が嬉しそうに言っていた。実感、温もり、具体的な何か。確かにそれも大切だ。けれども決して失われず、絶えず新しくされる神さまの御業が今日も包んでいる。祈っていると寂しくない。本当にそう感じておられるからこそその証しだ。一瞬より永遠を確信し、一瞬に永遠があると実感する。なんちゃってでもちやっかりでもなく洗礼によって完全に神さまに委ねる。見えない十字架を身に帯びて心だけでも体だけでもない罪を贖われた恵みの先に復活の主の再臨の希望がある。
「洗礼を受けたいです」。すべての教会に神さまとの新しい出会いがあるように、洗礼の喜びが与えられるようにその一人の救いを祈る。
(教団総幹事)



千葉市少年自然の家で

若者と共に祈り、共に働き、共に歩む

日独ユースミッション

東北ユース

芦別キャンプ

★日独ユースミッション2023

「救せない私たち」を主題に

8月7～17日に、ドイツ福音主義教会のウィットシュトック・ルピン教区より15～21歳のユース9名、カローラ・リッター教区監督を含むリーダー3名の計12名を日本に迎え、日独ユースミッション2023が開催された。今回は教団主催ではなく、ユースリーダー5名と共に有志実行委員会を構成し、ドイツ側のリーダーたちとスチームミーティングを重ねつつ、準備を進めてきた。またホストファミリー等の協力を千葉支区と神奈川教区に依頼。ウェスレー財団、および教団のカナダ合同教会基金からは助成金をいただくことができた(協力・教団世界宣教委員会)。

このユースミッションは2002年よりスタートし、毎年開催ではないものの、交互にユースを送り出し、迎え入れ、20年以上の歴史を重ねてきた。

今回の主題は、「救せない私たち」君はライバルのユニフォームを着られるか?。主題聖句はヨナ書4章10～11節とルカによる福音書11章4節a。8月9～11日はこの主題に基づき、日本のユースと共に千葉市少年自然の家でリトリートが開催された。

リトリートでは、閉会礼拝に向け、「讃美」、「祈り」、「聖書劇」の三つのグループに分かれて礼拝準備にあたったが、どのグループもユースが礼拝の中で活き活きと奉仕し、主をほめ讃える姿に感銘を受けた。

★東北ユース・キャンプ

主の御手が働く現場

東北教区は2015年秋に青少年プログラム小委員会を設置しました。現在は「東北ユース」の愛称で活動を展開しています。対象は中高生から若手牧師まで。キリスト教学校からも参加が多いのが特徴です。教団で最も「ユルイ」組織の一つ、を自負しております。

東北教区は2015年秋に青少年プログラム小委員会を設置しました。現在は「東北ユース」の愛称で活動を展開しています。対象は中高生から若手牧師まで。キリスト教学校からも参加が多いのが特徴です。教団で最も「ユルイ」組織の一つ、を自負しております。

会との交流。8月14～15日の神奈川教区プログラムでは、鎌倉散策、蒔田教会での平和の祈り、海員宣教の紹介。過去のユースミッション参加者たちとのユニオンの機軸も兼ねた歓迎会(西千

らメインは猪苗代教会を拠点とした夏・冬のワークキャンプです。90年代に仙台圏の青年会が始めたものを、形を工夫しながら継続しています。特に冬季の除雪ワークは大スポートです。会場教会の新田恭平先生も、かつての常連メンバー。教師検定試験と同時に招聘されました。何かと奇跡を起こしやすい体質ですが、彼だけで

★北海道全道教会青少年夏期キャンプ 芦別に十字架を、痛みからつながる恵み

8月11～14日まで、芦別祈りの家と美馬牛福音伝道所を会場に、第35回北海道全道教会青少年夏期キャンプ(通称・芦別キャンプ)が、会堂の老朽化の課題とコロナ禍を経て5年ぶりに開催された。道内外、SCF、宣教協



新しい十字架を掲げた芦別祈りの家の前で

約を結ぶ西東京教区、台湾基督教長老教会から子ども、大人合わせて37名(部分参加含む)の参加者が与えられた。

1953年、芦別祈りの家は、北海道特別開拓伝道(北拓伝)によって芦別教会として炭鉱地に建てられたが、炭鉱の閉山と著しい人口減少に伴いわずか30年程で活動休止を余儀なくされた。その後、北海道教区のも

若者たちによって修繕が加えられ維持されてきた。教区は北拓伝を痛みの歴史として捉え、そこから連帯が教区形成の柱の一つとして見出されてきた。若者たちと地域や教会の痛みの歴史、このキャンプを行う意義を共有することができたことは大きな意味があると感じる。

芦別キャンプは、ワーク主体のキャンプだ。痛んだ教会を自分たちの手で一つ一つ補修していく。ワークを通して参加者たちは心が開かれていき、教会も、参加者も神



夏季キャンプ、昼食

言って、他教区や台湾からも駆けつけます。感想文から声を拾うと、「親密さが醍醐味」、「テセ風の新しい賛美と祈り」、「皆で作る心のこもったご飯」、「私を人間らしく戻してくれ」など真実がにじみます。

「スキマ」と見える要素は時として、主の御手が働く現場となります。社会や学校に居場所のない若者も勉強や奉仕に熱心な者も参加しますが、格差や区別は生じません。互いに受容し、学び合います。そして「猪苗代は心の故郷!」と

教師検定試験公告

2024年春季教師検定試験を左記の要領で行います。

一、受験要綱の申し込み
受験要綱と教団指定の願書用紙は165円切手を同封し、正教師受験志願者か補教師(A、B、Cコースの別も)受験志願者かを明記した上、封書でお申し込みください。
なお、正教師受験志願者は「教師検定規則第12条②」によるものに限りです。

二、受験願書の提出
受験願書と必要書類を整えて、受験料とともに所属教区に提出してください。

①教区締切 2023年11月13日(月)
(教区により締切が早まる場合がありますので、教区事務所に確認してください)

②教団締切 2023年12月13日(水)
(各教区から教師検定委員会に提出する際の締切です)

*受験料は正教師1万3千円、補教師1万円
三、補教師について
①「説教」「釈義」の課題テキスト
旧約 イザヤ書2章1～5節
新約 ルカによる福音書10章1～12節

②コースによって「説教」「釈義」の提出内容が異なりますので、必ず受験要綱でご確認ください。

③補教師(Cコース)の牧会学の課題
『牧会とは何か』について論述してください。

④Aコースについては、教師検定規則第4条第3号にもとづく試験が実施されます。
同対象者は、神学校を通して説明をうけ、それにもとづく手続をおこなってください。

四、正教師について
受験志願者は、直接教師検定委員会までお問い合わせください。

五、提出物説教、釈義、牧会学等締切について
当委員会への提出締切日は、2023年12月15日(金)午前中必着です。

六、学科試験と面接試験について
学科試験は2024年2月20日(火)、面接試験は2月21日(水)、22日(木)に日本キリスト教会館において実施します。
不明な点は直接、当委員会へお問い合わせください。

2023年9月30日

〒169-00051 日本基督教団教師検定委員会
東京都新宿区西早稲田2-3-18-31
電話 03-33202105 46

▲教区青年担当者会・教育委員会▲

「青年担当者は何をする？」をテーマに

《教区青年担当者会》

第13回教区青年担当者会が9月4日にオンラインで開催された。テーマは「青年担当者は何をする？」。これまで「青年」に当てられてきた焦点を「青年担当者」に当てる新しい試みであった。横山ゆずり教育委員長の開会祈禱に続き、司会の藤巻朋子委員がその趣旨を説明した後、講師の大宮謙氏青山学院大学教授・宗教部長より「生命線はKeep Young」をテーマに講演がなされた。

大宮氏はまず、自己紹介をかねて自らの教会における青年（青年会）および青年担当者時代を懐かしく振り返った後、リ

ンカーン大統領のゲティスバーグ演説を模して「青年の青年による青年のための青年会」であることが第一であると主張し、青年が青年担当者よりも数的優位にあること、企画・運営は青年に任せ、青年担当者は「あくまで伴走に徹する」と、そして「目標や成果を優先せず、青年が「空間と時間を共有し、聖書と祈りと賛美と語らひに浸る」ことのできる「居場所」の提供に重点を置くことの大切さを示した。青山学院大学での礼拝や講義での実際の取り組みも紹介し、最後に、「他に居場所が見つかりにくい青年こそが歓迎される場でありたい」と、

《教育委員会》

第4回教育委員会が9月5日にオンラインで開催された。報告事項では、事務局より、幼稚園融資金募集、CSの表彰状文案の変更、2022年度クリスマス献金（4件・合計550万円）が無事送金されたことなどが報告され、台湾ユースミッション（8/29〜9/5実施、日本青年7名を台湾へ派遣）については担当の石田真一郎委員より詳細な状況報告がなされた。

第56回「敗戦の日・追悼と、平和を求める集会」
日本は「唯一」の被爆国か

8月12日、広島流川教会を会場に、オンラインと併用して、第56回「敗戦の日・追悼と、平和を求める集会」が行われた。この集会は、敗戦の日、アジア太平洋戦争で亡くなられた方々を覚えて、「西中国キリスト者遺族の会」が中心になって、追悼することから始まった。しばらくして、「追悼する

豊永さんを講師に迎え



今年度は、祈りと賛美の後、「韓国の原爆被害者を救済する市民の会」広島支部世話人、「ヒロシマを語る会」代表の豊永恵三郎さんを講師に迎え、「在外被爆者問題について」と題して、自身の支援活動や裁判資料を中心に講演をしてもらった。諸説あるが、広島・長崎で、推定10万人の「韓国・朝鮮人」（被爆直後の死者数は推定5万人）をはじめ、多くの外国人が被爆した。戦後日本国内では、「原爆医療法」、「原爆特別措置法」（現在は、「被爆者援護法」に一本化）によって、被爆者健康手帳（以下、手帳）の公布がされ、医療費支給等の支援が行われたが、在外被爆者は、手帳の交付すらされず、公的支援を受けることができなかった。つまり「被爆者」であることが認められなかったのである。現在は、外国在住であっても、手帳の交付等、公的支援を受けられるようになったが、手帳の交付が認められない、元徴用工の損害賠償など、被爆者が高齢化、減少する中で、「在外被爆者問題」は、まだまだ課題が多く残されている。講師の「日本は『唯一』の被爆国か」という問いかけに、多面的な歴史の見方と、これからの行動の在り方を考えさせられた時間であった。（月下星志報）

事務局報

（三ツ本武仁報）

廣瀬隆司（無任所教師）



23年3月6日逝去、58歳。兵庫県生まれ。87年関西学院大学卒業。88年より09年まで徳島北教会を牧会。遺族は妻・廣瀬恭子さん。

岩本二郎（隠退教師）



23年8月7日逝去、91歳。23年8月7日逝去、91歳。福岡県生まれ。71年東京神学大学大学院修了。73年よりみぎわ（現清瀬みぎわ）、黒石、成田教会を牧会し、15年隠退。遺族は妻・日野つるぎさん。

部 雅二（隠退教師）



23年8月13日逝去、66歳。北海道生まれ。88年東京神学大学大学院修了、同年より南国、土別、和寒、鷹巣教会を牧会し、20年隠退。遺族は妻・部美喜子さん。

竹井祐吉（隠退教師）



23年8月19日逝去、

教区議長コラム

◆ 東中国教区 ◆

服部 修

東中国教区は教団の中では沖縄教区に次ぐ小さな教区である。地域的には鳥取県・岡山県だけが、移動となるとそこそこ大変な地域。だから交通費は小さな教区の会計ではそれなり負担となっていた。その点に限れば、コロナ禍はリモートでの委員会がメインとなることによって会計的負担の軽減にはなった。一方、リモー

小さいからいい

が教区を地域的共同体と規定しているのだから、その地域にふさわしい宣教の手段はあるに違いない。そうであるなら、小ささはデメリットではなく武器になる。これならできる、という小

（東中国教区議長）

教会通信先変更

新泉 〒168-0081 東京都杉並区宮前3-2-25 北村恵子方伝道所所在地変更 北備 〒729-6134 庄原市木戸町800 山本泰章方 関係学校承認 横浜訓盲学院

お詫び・訂正

新報4997・98号 4面「事務局報欄」、「甲子園就（主）佐藤成美を」、「甲子園就（主）佐藤成美」に、「桜ヶ丘辞（主）朝位フミ子」を「左内坂」の次に追加し、お詫びして訂正いたします。



昨年本園は創立90周年の節目を迎えました。

本園の在る富士川町は2010年3月、増穂町と鵜沢町が合併して発足した人口1万4400人の町です。教会と幼稚園は旧増穂町で誕生しましたが、福音伝道は先に鵜沢町で開始されています。「甲府教会百年誌」や新堀邦司著「愛ーわがプリユード」から鵜沢伝道の様子を知ることが出来ます。「大正13年頃鵜沢に日本メソジスト教会の出張講義所があり宣教師W・O・フライヤーが鈴木良四

えられんことを切に神に祈つた。そして求めた」(山内一史著「愛の新书」教文館)。

昭和3年頃、斉藤富枝著「灯をあげがとう」によると鈴木良四郎が増穂村青柳で民家の一室を借りて集会を開いており「増穂は小室山の膝元、各丁目に寺がある。日蓮宗の特に盛んな村です。此処でどうやって教会を建て布教出来るか」思案していたとき牧師から土地と建物を提供すればカナダミッションに経営管理を委託できるという話があり教会兼園舎を建てる事になったと経緯が記されている。

本稿ではその後の社会情勢の大変化に教会はどう対処したか

について簡潔に記します。大戦の戦局が危うくなり宣教師の強制送還が始まりマクラウド園長を失いカナダからの援助が絶たれカナダミッション(WMS)が経営していた幼稚園を誰が引き継ぎどのように経営するかという問題が浮上しました。戦時中は婦人部長鈴木春野と教師たちが出征兵士の家庭の子どもたちを無料で受け入れ疎開の子どもたちも受け入れる愛の行為を通して地域の偏見を緩和し信頼を勝ち取り危機を切り抜けました。戦後、幼稚園は青柳教会(現巨摩教会)の公益事業として引き継がれましたが徐々に国力が回復し経済活動が盛況になり町内外に公立保育所が増設され幼稚園の入園児が減少し1962年教会は幼稚園の運営責任を負えなくなり牧師は辞任しました。代務者が与えられましたが教会と幼稚園は14年間切り離された状態にありました。

私が着任したのは1976年4月です。教会も幼稚園も存廃の危機に直面し、教会は幼稚園の責任を負えないという判断を下していましたので公益事業の廃止手続きを進めると共に斉美会に土地と建物の譲渡申請を行い教会財産として登記しました。1982年3月、山梨県から学校法人峡南学園の設立認可を得て園舎新築事業に取り組み翌年立派な園舎が竣工しました。その後教会の再建には38年の歳月を要しましたが2013年3月町の中心地に移転新築され今日に至っています。

熱い祈りの中でとまれた希望の灯(ひ)はこうして守られ私たちを明るく照らしています。再建された幼稚園と教会は伝道の原点を受け継ぎ力強く生かされています。

8月16、18日、「いのち・平和・人権」小さな声をききとり、ネットワークでつながろう」をテーマに第33回全国キリスト教学校人権教育セミナーが東京で開催され、約70名が参加した(オンライン含む)。

1990年にNCCのよびかけで「解放教育交流集会」として始まり、その後カトリックを含む超教派の「全国キリスト教学校人権教育研究協議会」によるセミナーに発展してきた。当初から教団部落解放センターが関わり、現在では教団在日韓国・朝鮮人連帯特設委員会も賛同団体に加わっている。

今回、一日目には5つのコースのフィールドワークが設定された。筆者は「高麗博物館／文化センターアリラン」の見学に参加したが、関東大

震災百年を期に当時の朝鮮人虐殺事件に関する展示がなされていて、次々に来館者が訪れていた。

二日目、青山学院短期大学礼拝堂で全体プログラムが行われた。実行委員長の佐原光児氏の基調報告に続き、会津放射能情報センターの片岡輝美氏による講演「私のあとに続くいのちのために」福島からのメッセージ」が行われ、教育現場を活用して原子力政策が推進されている実態が指摘された。工藤万里江氏による聖書研究「武器が防具か、それとも？クイア神学と聖書」は創世記19章をとりあげて「聖書への向き合い方を問うた。

全国キリスト教学校人権教育研究協議会総会も行われ、「道徳の『教科化』に対する反対意見」「朝鮮高校と幼稚園を『無償化』対象とするよう求める要請書」などが採択された。また長同協議会の会長を務めた故関田寛雄牧師を偲ぶ集いが行われた。

三日目には日本キリスト教会館に移り、8つの分科会(うち3つはオンライン)での学びの後、ベリス・メルセス宣教修道女会の弘田しずえ氏による派遣礼拝で三日間のプログラムを終えた。

セミナーの内容については同協議会のサイトにも掲載されている。充実したプログラムの陰の労苦に感謝したい。

(久世てらち報)

教会で初めて礼拝するのは勇気がいることだと思う。他教派で2階席を出入り自由、私の表現ではチラ見席にした教会がある。終わりまでいてもいいし、通過するだけでもいい。礼拝の雰囲気だけでも体験してまた来てほしいと願ったことだ。

そんな話を挨拶に伺った宣教研究所委員会でお話したところ、委員で伊東教会の上田彰牧師が教団ホームページ・公式YouTubeに掲載する8月の「今月のメッセージ」で教会の外から録画を始め、会堂内に入

る形にしてください。笑顔で手を振り迎える教会の方々の姿もあり、そのままメッセージに聴き入った。アバター(分身)で参加するメタバース(仮想空間)教会も一つの可能性だ。いつか神さまが現実の教会に本人を導かれることを信じているの

「老いるとは初めてが少なく

なっていくこと」と言った人がいる。信仰者にはピンとこない。日々聖霊によって新しくされているからだ。幾度も聞いた聖書もその時々私たちに生かし常に初めてと新しさに招いている。

「だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの『外なる人』は衰えていくとしても、わたしたちの『内なる人』は日々新たにされていきます」(コリントの信徒への手紙二4章16節)。

(教団総幹事 網中彰子)

松本さんは、京都市内の更生保護施設で社会福祉士・精神保健福祉士として働く。「弱い者の皆」、「貧しい者の皆」(イサヤ書25章4節)のような働きができるようにと祈りつつ務め始めた。定員20名の小さな施設で、覚えい削で捕まった人、万引き窃盗・詐欺の人の他、殺人や放火などの罪を犯した人もいる。

職員が刑務所に出向き、面接を行った上で、施設への入所が決まる。松本さんは「面接する人皆を受け容れたい」と、「連れて帰ります」と言っは、自らを窮地に陥れている」という。「小さくされた者」とどう接するのか神さまは試みておられるのではないかと。

自己肯定感の低い寮生たちには、「私の目にはあなたは高価で尊い」と伝えられたら、「イエスさまが愛してくださっている」と伝えられたら、「地位も名誉もお金もなく、人に寄り添うことしかできない」と思っていた。イエスさまから頂いたものだけが手元にあり、それを惜しまずに差し出すように言われているのだ」と語る松本さん。イエスさまと共にあることを覚えつつ、仕えて行きたいと語る。

伝道 報 告



七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。…イエスは言われた。「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」

ルカによる福音書第10章17節～20節

伝道の原点を生きる一再建された教会と幼稚園

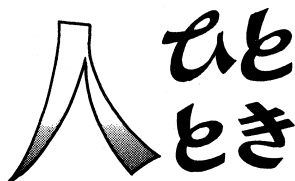
学校法人峡南学園理事長・巨摩教会牧師 徳田 隆二

即伝道師をアシスタントに伝道、牧会の責任を負っていた」と記しています。フライヤーが帰国した後G・E・バットが来峡してフライヤーの任務を継承していますが、バットが東京に帰った後の鵜沢伝道は結果が得られず「宗教的に無理解だった家主のため追立てを食はされたのだつた。幾人かの信者や求道者は、行くべき家を失った。彼等は集会所を与

郎伝道師をアシスタントに伝道、牧会の責任を負っていた」と記しています。フライヤーが帰国した後G・E・バットが来峡してフライヤーの任務を継承していますが、バットが東京に帰った後の鵜沢伝道は結果が得られず「宗教的に無理解だった家主のため追立てを食はされたのだつた。幾人かの信者や求道者は、行くべき家を失った。彼等は集会所を与

第33回全国キリスト教学校人権教育セミナー

「小さな声をききとり、ネットワークでつながろう」



松本 雅代さん

イエスさまと共に



堅田教会員

いか」との問いがあるのだそう。施設では「こんな私ら」という言葉がよく使われる。松本さんは決まって「私はしるしで働いているのと違うんですよ。あんなたちの役に立ちたくてここに来たんですよ」と答える。寮生たちは、照れ臭そうに「松本さん、変わってるなあ」と言っ笑う。松本さんは、その笑みの中にイエスさまを見る気がするという。

自己肯定感の低い寮生たちには、「私の目にはあなたは高価で尊い」と伝えられたら、「イエスさまが愛してくださっている」と伝えられたら、「地位も名誉もお金もなく、人に寄り添うことしかできない」と思っていた。イエスさまから頂いたものだけが手元にあり、それを惜しまずに差し出すように言われているのだ」と語る松本さん。イエスさまと共にあることを覚えつつ、仕えて行きたいと語る。